

一般社団法人日本写真学会  
第8回 定時社員総会

日 時：令和元年（2019年）5月21日（水）15：00～15：50  
会 場：三菱製紙株式会社 本社11階 会議室〒130-0026 東京都  
墨田区両国2丁目10番14号（両国シティコア）

【第1号議案】2018年（平成30年）度事業報告

1. 学会誌・学術図書及び資料の刊行（定款第5条（1））
  - 1-1 学会誌の刊行に関する事項
    - 1) 発行回数 6回 日写誌81巻2号～4号、82巻1号、BSPIJ vol.28-1, vol.28-2
    - 2) 総頁数 382頁（日写誌）、22頁（英文誌）
    - 3) 特集
      - 2017年のカメラ（81巻3号）
      - 2017年の写真の進歩（81巻3号）
      - ミューオンラジオグラフィ（81巻3号）
      - ペロプスカイト太陽電池（81巻4号）
      - 補償光学（81巻4号）
      - アンビエント技術セミナー（82巻1号）
      - 画像保存（82巻1号）
    - 4) 主要掲載事項および件数（Web 英文論文誌 BSPIJ を含む）
 

一般論文	2件	口 絵	4件
ノートおよびレター	2件	紹 介(写真のある美術館)	4件
技術レポート	1件	報 告	0件
講 座（ワンポイント）	3件	書 評	1件
解 説	30件	会 報	4件
巻頭言	1件	その他（受賞者案内）	1件
    - 5) 科学技術振興機構の電子アーカイブ J-STAGE に、発行後1年経過した論文・解説等の記事を掲載した。
  2. 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条（2））
    - 2-1 研究発表会、講演会などの実施
      - 1) 第32回写真好きのためのカメラレンズ工場見学会&撮影スポット巡りツアー／（株）シグマ会津工場見学会と会津若松近郊の桜撮影スポット巡り一泊（平成30年4月17日～18日、福島県須磨郡磐梯町大字大谷字日知坂）  
シグマ会津工場見学会  
第一部：講演『シグマの光学の歴史と技術』（株）シグマ 大曾根様  
第二部：シグマレンズ工場ガイドツアー見学会 案内（株）シグマ会津工場ご担当  
会津若松近郊の桜撮影スポット巡り：撮影スポット～桜名所撮影会  
参加者数23名（定員20名）
      - 2) 2018年度 PHOTONEXT 技術アカデミー（平成30年6月5日、パシフィコ横浜 2F204室）  
【セッションⅠ：最新デジタルカメラシステムの技術動向】  
講演1. FUJIFILM「X-H1」開発の狙いと搭載技術の紹介（富士フイルム（株） R&D 統括本部光学・電子映像商品開発センター、高田 浩祐 氏）  
講演2.「高画素×高速＋多機能」を実現した D850 の開発（（株）ニコン映像事業部開発統括部第一設計部、馬島 章充氏）  
【セッションⅡ：映像出力技術と表現技術】  
講演3.「カラリオ最高画質 Colorio V-edition EP-50Vの開発」(セイコーエプソン（株）プリンティングソリューションズ事業部 P企画設計部、松田 完氏)  
講演4.「写真館における動画撮影のあり方と出力表現を考える」(イメージバンクナカジマ（株）代表取締役・写心家、中嶋 秀磨 氏)  
講演5.「デジタルカメラによるフィルムデジタイズのすすめ」(写真家、写真技術研究家、山野泰照氏)

- 講演6.「被写体&コンセプト別 撮影機材活用法」(写真家、相原正明氏)  
講演6件、参加者数52名（延べ）
- 3) 2018年度日本写真学会年次大会（平成30年6月20日～21日、千葉大学けやき会館）  
画像関連学会連合会 第2回合同年次大会  
大会スローガン「協創で築く豊かな画像文化－ Enriched Imaging Culture by Co-innovation」  
写真学会特別講演：6/20（水）14：30～15：20（3階レセプションホール）  
『国語科で育むリテラシーと写真の語り』（大阪教育大学教育学部 松山雅子教授）  
パネルディスカッション：6/20（水）17：20～18：10（3階レセプションホール）  
『デジタルの世界で活躍するプロ写真家のワークフロー』パネラー：茂手木秀行、大和田良、清水哲朗  
一般社団法人 日本写真学会 社員総会 6/20（水）9：00～9：40（3階レセプションホール）  
一般社団法人 日本写真学会 学会賞授賞式 6/20（水）11：30～12：00（3階レセプションホール）  
受賞講演&一般講演：  
A会場13件6/20（水）9：50～18：10（3階レセプションホール）  
B会場19件6/20（水）9：45～18：10（3階 会議室4）  
インタラクティブセッション 28件  
ショートプレゼンテーション 6/21（木）10：00～11：37（1階 大ホール）  
ポスター発表 6/21（木）13：00～16：00（3階レセプションホール）  
総参加者数86名
  - 4) 第33回写真好きのための定例講演会（平成30年6月27日、日本カメラ博物館 JCI2F 会議室・1F フォトサロン）  
講演：『金丸重嶺 vs 名取洋之助ーオリンピック写真合戦 1936』  
作品および関係資料の解説（日本カメラ財団調査研究部長 白山真理先生）  
写真展鑑賞：フォロサロン作品鑑賞（会場案内・説明付き）  
参加者：19名
  - 5) 第6回天体写真技術研究会（平成30年7月7日、（株）ケンコー・トキナー セミナールーム）  
【プログラム】  
講演1：『天文学用補償光学の概要 講師：国立天文台 大屋真氏  
講演2：『惑星モニター観測用補償光学装置の開発』講師：岡山理科大学 渡邊誠先生  
講演3：『アマチュアによる惑星撮像の現状』講師：月惑星研究会 / 東大和天文同好会 山崎明宏氏  
全員討論：『惑星撮影技術の今後の課題と見通し』  
講演3件、参加者：33名
  - 6) 2018年度日本写真学会年次大会（平成30年6月20日～21日、千葉大学西千葉キャンパス）  
画像関連学会連合会 第2回合同年次大会  
大会スローガン「協創で築く豊かな画像文化－ Enriched Imaging Culture by Co-innovation」  
特別講演：「国語科で育むリテラシーと写真の語り」（松山 雅子 先生：大阪教育大学）、パネルディスカッション：「デジタルの世界で活躍するプロ写真家のワークフロー」（茂手木秀行、大和田良、清水哲朗氏）、その他、日本写真学会・日本画像学会合同セッション（インタラクティブセッション・ショートプレ

ゼンセッション), 学会賞受賞講演, 招待講演, 口頭発表, レセプションを実施した。

総参加者数 86 名

- 7) 第 34 回写真好きのための定例講演会 (平成 30 年 7 月 10 日 東京都写真美術館)

【プログラム】

写真展鑑賞 1. 内藤正敏 『異界出現』 2F 展示場 (担当学芸員によるギャラリートーク付き)

写真展鑑賞 2. TOP コレクション『たのしむ, まなぶ イントウ・ザ・ピクチャーズ』 3F 展示場

- 8) 第 15 回光機能性材料セミナー (平成 30 年 8 月 31 日, 富士フイルム東京ミッドタウン本社会議室)

テーマ: 「ペロブスカイト太陽電池 その理解と展開」

講演 1 「ペロブスカイト光電変換素子の高効率特性と応用技術の将来展望 (桐蔭横浜大学 医用工学部臨床工学科: 宮坂 力先生)

講演 2 銀塩写真の色増感からペロブスカイト太陽電池への道のりと課題 (日本写真学会フェロー: 谷 忠昭先生)

講演 3 ハロゲン化金属ペロブスカイトの光物理とデバイス (京都大学 化学研究所: 金光 義彦先生)

講演 4 マイクロ波分光法によるペロブスカイト太陽電池の光電気物性 (大阪大学 大学院工学研究科: 佐伯昭紀先生)

講演 5 ペロブスカイト太陽電池: 低コスト材料開発と低ヒステリシス光電変換特性 (東京大学 先端科学技術研究センター: 別所 毅隆先生)

参加者: 49 名

- 9) 第 6 回アンビエント技術セミナー (平成 30 年 10 月 5 日, 富士フイルム (株) 東京ミッドタウン本社会議室)

テーマ: 産業化が近づいたプリンテッドエレクトロニクス用材料技術の進展

講演 1 分子形状と分子軌道形態の制御による革新的有機半導体材料の開発 (東京大学大学院新領域創成科学研究科物質系専攻 岡本敏宏先生)

講演 2 液晶性有機トランジスタ材料の特質と材料設計 (東京工業大学 未来産業技術研究所 飯野 裕明先生)

講演 3 印刷可能な新規 n 型有機半導体の開発と印刷型有機集積回路応用 (山形大学 有機エレクトロニクスセンター 時任 静士先生)

講演 4 酸化物半導体トランジスタの進展と Printed Electronics 応用への課題 (東京工業大学 元素戦略研究センター 雲見 日出也先生)

講演 5 プリンテッドエレクトロニクスのための感光性表面修飾剤の開発 (神奈川大学 理学部 山口 和夫先生)

参加者: 19 名

- 10) 第 4 回表現と技術研究会 (平成 30 年 10 月 9 日 日本大学江古田校舎東棟 2F・写真講義室)

【テーマ】: 「プリントの魅力とプリントを作成する楽しさを伝えること」を目的に, 従来のアナログシステムで作成される最高レベルのプリントに, デジタル技術で迫ることを目指すプロジェクトの進捗状況報告と今後の検討・・・研究会および参加者全員

参加者: 16 名

- 11) 第 26 回カメラ技術セミナー (平成 30 年 10 月 24 日 国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟セミナーホール) デジタルカメラ各社とも精密機械, 光学, 電気, 情報処理の融合による新たな価値提案を行っている状況の中で, 若手技術者に各種技術情報を提供し, また技術者同士の交流の場の提供を目的に開催した。

講演 1. 「SIGMA Art レンズの企画とその背景」((株) シグマ商品企画部 大曾根康裕氏)

講演 2. 「超望遠高倍率ズームレンズ 18-400<qsp>mm/3.5-6.3

の開発」((株) タムロン光学開発本部光学開発一部 仲澤公昭氏/同映像事業本部 戸谷聰氏)

講演 3. 「IJ フォトプリンター imagePROGRAF PRO シリーズの高画質化技術とデジタル一眼カメラ EOS との連携技術」(キヤノン (株) インクジェットデバイス開発センターインクジェットデバイス画像プロセス第二設計部 田鹿博司氏)

講演 4. 「『高画素×高速+多機能』を実現した D850 の開発」((株) ニコン映像事業部開発統括部 馬島章充氏)

講演 5. 「バウンス撮影の自動化を実現したスピードライト 470EX-AI の開発」(キヤノン (株) ICB 統括第三開発センター ICB 統括 34 開発部 樫山律夫氏)

講演 6. 「LUMIX G9 PRO のデザイン開発」(パナソニック (株) アプライアンス社デザインセンター 佐々木厚氏)

講演 7. 「ソニー・イメージセンサーの技術進化の方向性」(ソニーセミコンダクタソリューションズ (株) イメージングシステム事業部 IS 設計開発 1 部 角本兼一氏)

講演 7 件, 参加者数: 162 名

- 12) 平成 30 年度画像保存セミナー (平成 30 年 10 月 26 日, 東京都写真美術館ホール)

日本写真学会画像保存部会 (画像保存研究会・デジタルアーカイブ研究会) は, 銀塩写真を中心とするプリント材料から, デジタル化された画像データについて, その保存と活用について広く取り扱っており, 参加者の皆様のお役に立つように, 基礎的な知識, 最新の情報, 活用例など, 多岐にわたる内容を届けている。本年度は, オリジナル写真を保存する意義とデジタル化による活用について, 具体的な取り組みをされている機関から報告していただくとともに, デジタル化に必要なカラーマネジメントの基礎知識, データ保存媒体としてのテープストレージの最新技術動向についての講演を企画した。

講演 1. 「写大ギャラリーにおける写真の保存と利用の取り組み」(東京工芸大学芸術学部 吉田成先生/日本写真印刷コミュニケーションズ (株) 深瀬幸氏)

講演 2. 「文化庁国立近現代建築資料館のデジタル化の取り組みと Archivematica によるデジタルデータ保存について」(国立近現代建築資料館 藤本貴子氏/帝国データバンク史料館 橋本陽氏)

講演 3. 「デジタルアーカイブにおける色とカラーマネジメントに関する初歩」(カメラ・写真技術解説家 水口淳氏)

講演 4. 「テープストレージの最新技術動向」(富士フイルム (株) 記録メディア事業部 立川篤氏)

講演 5. 「明治期の博物館における写真の撮影と利用」(東京国立博物館 田良島哲氏)

講演 5 件, 参加者数 103 名

- 13) 写真好きのための カメラレンズ工場見学会ツアー 第二弾～(株) 栃木ニコン工場見学会と秋の那須高原めぐり日帰りツアー～ (平成 30 年 11 月 7 日 (株) 栃木ニコン: 栃木県大田原市実 770 番地)

第一部: 講演: 栃木ニコンの紹介とニコンの光学の歴史と技術について

第二部: 栃木ニコンレンズ工場ガイドツアー見学会 案内 工場ご担当

那須高原バス巡り

参加者 17 名

- 14) 画像関連学会連合会 第 5 回秋季大会 (平成 30 年 11 月 15 日～17 日 京都工芸繊維大学 60 周年記念館) 【主催】 画像関連学会連合会, 【共催】 京都工芸繊維大学 11 月 15 日 (木)

●オーラルセッション材料・機器 (1) (2) A 会場: 60 周年記念館 1F 記念ホール

●オーラルセッション材料・機器 (3) (4) B 会場: 60 周年記念館 2F 大セミナー室

- 11月16日(金)
- ポスターセッション(終了時にベストポスター賞等発表予定) ショートプレゼンテーション(1件3分)/A会場:60周年記念館1F記念ホール
  - 全体基調講演 A会場:60周年記念館1F記念ホール 「映像のアーカイビングーアカデミー科学技術賞受賞とその後の展開ー」(国立アーカイブ 大関勝久氏)
- 11月17日(土)
- ソフト系(1)(2) A会場:60周年記念館1F記念ホール
  - 特別講演 B会場:60周年記念館2F大セミナー室 「Expressive Rendering～NPRからVRまで～」(東京電機大学 高橋時市郎先生/アストロデザイン 森谷友昭氏) 「ゲーム業界で20年生き残った処世術」((株)ロジカルビート 堂前嘉樹氏) 「人工知能による樹種の画像判別」(京都大学生存圏研究所 杉山淳司先生) 発表総件数52件(画電:12,印刷:11,画像:17,写真28),写真学会参加者54名
- 15) 第22回アンビエント技術研究会(平成30年11月19日,東工大蔵前会館小会議室2)
- 講演1『ソフトクリスタル』(東京工業大学 化学生命科学研究 所 教授 福島孝典先生)
- 講演2『有機半導体単結晶薄膜の作製技術』(産業技術総合研 究所/東京大学 教授 長谷川達生先生)
- 参加者:17名
- 16) メディカルイメージング連合フォーラム2019(平成31年1月 22日～23日,日本アイソトープ協会主催,日本写真学会共催, 那覇 沖縄青年会館)
- 17) 写真好きのための定例講演会～東京工芸大学カララボ「色を 探検する展」解説付き見学会～ (平成31年1月28日東京工芸大学厚木キャンパス12号館 カ ラボギャラリー,厚木市飯山)
- 映画「紅」(べに)の鑑賞と“紅”作成実験:(講師 東京工 芸大学工学部 矢口仁先生)
  - カラボギャラリー第3回企画展の解説とギャラリートーク見 学:(講師:東京工芸大学工学部メディア画像学科 森山剛先 生)
- 18) 第52回光学五学会関西支部連合講演会～AI・光・画像技術～ 未来社会のための光学技術～ (平成31年2月2日,大阪産業大学 梅田サテライトキャン パス レクチャールーム AB)
- 講演1.「眼底画像診断のためのAI開発」(滋賀県立大学工学 部 畑中裕司氏)
- 講演2.「センチメートル級高精度測位技術によるスマートシティ 構想」(三菱電機(株)電子システム事業本部 瀧口純 一氏)
- 講演3.「分光スペクトルデータの機械学習とその実用」(大阪 電気通信大学工学部 森田成昭氏)
- 講演4「超高齢社会への挑戦」～近未来の介護予防装置 Body- KIN(ボディ筋)～(兵庫県立社会福祉事業団福祉の まちづくり研究所 中村豪氏)
- 19) 第23回アンビエント技術研究会(平成31年2月25日,富士 フィルム(株)東京ミッドタウン本社)
- 講演「フレキシブルエレクトロニクスの開発とバイオ有機デバイ スへの展開」(東京大学工学系研究科電気系工学専攻 講師 横田知之先生)
- 参加者:19名
- 20) CP+2019日本写真学会コーナー展示(平成31年2月28日 ～3月3日,パシフィコ横浜)
- 今年度から,日本写真学会単独ブースを確保し,写真学会の PRコーナーとして展示を行った.
- 日本写真学会コーナー展示
- 展示1.写真学会会長挨拶(写真学会紹介)・技術領域紹介・ 会員特典紹介
- 展示2.写真学会学会賞授賞紹介(2018年度技術賞2件,東 陽賞1件)
- 展示3.写真学会研究会紹介6件
- 来場者:多数,入会者7名
- 21) 第36回写真好きのための講演会
- 富士フィルム(FUJIFILM Imaging Plaza)カメラセミナー～ 日本写真学会「写真好き」のための講演会とFIPギャラリー 見学会～(平成31年3月19日,富士フィルムイメージング プラザ丸ノ内1.)
- 講演1.「デジタルカメラの画作り」(富士フィルムイメージン グシステムズ(株)デジタルカメラ事業部 南進氏)
- 見学「FUJIFILM Imaging Plaza & ギャラリー見学」(富士フ イルムイメージングシステムズ(株)上野直也氏)
- 参加者29名
- 22) 日本写真学会・日本印刷技術協会共催 新刊「みんなの印刷入 門」の著者によるダイジェストセミナー-デジタル時代の印刷 技術の再確認(あやふやなこと,不確かなこと,論理的に再度 勉強したいこと)-(平成31年3月19日 日本印刷技術協会 (JAGAT)3Fセミナールーム)
- 【構成(講師と内容)】
- 講演1.「印刷機分野(オフセットからデジタルまで)」((株) 小森コーポレーション 吉川武志氏)
- 講演2.「用紙分野」(三菱製紙(株) 木村篤樹氏)
- 講演3.「製本分野」(加藤製本(株) 加藤隆之氏)
- 講演4.「プリプレス全般(カラーマネ,ワークフロー含む)」(日 本印刷技術協会 郡司秀明氏)
- 写真学会参加者1名
- 23) 第33回固体飛跡検出器研究会(平成31年3月24日～25日 固体飛跡検出器研究会主催,応用物理学会放射線分科会・名古 屋大学大学院理学研究科共催,日本写真学会協賛 名古屋大学 東山キャンパス ES館) 特別・招待講演3件,一般講演19件
- 24) 第5回表現と技術研究会(平成31年3月26日 日本大学江古 田校舎東棟2F・写真講義室)
- 【テーマ】:『デジタルプリントと銀塩プリントの比較プロジェ クトの進捗報告』
- 参加者:20名
3. 研究及び調査の実施(定款第5条(3))
- 3-1 委員会組織の拡充
- 技術領域の多様化や産業構造の変化に対応すべく,前年度に改 組した新体制の活動の充実を図ってきた.具体的には,技術委 員会から独立発足した「写真文化拡大委員会」と,技術委員会 の直下に新規発足した「写真史研究会」および「教育への写真 応用研究会」の2研究会の活動を展開した.
- 3-2 技術委員会
- 技術委員会の各組織は,以下のような活動を行った.
- 【画像入出力部会】
- ・画像入出力研究会
- 今年度は研究会としての活動は無かった.
- ・カメラ技術研究会
- 7回の研究会を開催した.第26回カメラ技術セミナーを企画・ 運営した.また,学会誌での特集,年次大会の運営に協力した.
- ・表現と技術研究会
- 研究会の開催は2回,銀塩とデジタルで評価サンプルを作成し, 評価実験を行った.
- 【アンビエント画像部会】
- 平成30年度は研究会開催の都合がつかず,顔画像の見えの改善 に関する基礎検討を各委員が行った.
- 【医用画像部会】
- ・医用画像研究会
- メディカルイメージング連合フォーラム2019(委員長森 健策(名 古屋大) 主催電子情報通信学会医用画像研究会に共催(於沖縄 県那覇市青年会館,2019年1月22-23日):共催:日本医用画

像工学会 JAMIT フロンティア 2016, 医用画像情報学会, 日本生体医工学会生体医用画像研究会, 日本写真学会, 招待講演を 2019 年 1 月に受け (会長), 発表, 『ナノ粒子イメージングが切り拓く細胞・組織イメージングとプレジジョンメディシン支援』

#### 【画像保存部会】

年次大会および秋季大会および画像保存セミナー (画像保存研究会およびデジタルアーカイブ研究会共催) の企画・運営に参加した。画像保存セミナーは平成 30 年 10 月 26 日, 東京都写真美術館ホールで開催, 有料参加者 103 名, トータル 119 名。

#### ・画像保存研究会

年次大会, 秋季大会および平成 30 年度画像保存セミナーの企画・運営を行った。

#### ・デジタルアーカイブ研究会

年次大会, 秋季大会および平成 30 年度画像保存セミナーの企画・運営を行った。

「国立近現代建築資料館における資料デジタル化の取り組み」に関する勉強会を開催した。講師, 藤本貴子氏, 今井恵子氏 (国立近現代建築資料館) 2018/6/29

#### ・文化財写真保存ガイドライン検討グループ (文化財写真技術研究会と共同)

「文化財写真の保存に関するガイドライン」の改訂を審議, 2019 年 5 月に発行予定。

#### 【アンビエント技術部会】

#### ・アンビエント技術研究会

+ 第 22 回アンビエント技術研究会を平成 30 年 11 月 19 日に東工大蔵前会館小会議室 2 にて開催した。参加者は 16 名。

講演 1 『ソフトクリスタル』 (東京工業大学 化学生命科学研究科 教授 福島孝典先生)

講演 2 『有機半導体単結晶薄膜の作製技術』 (産業技術総合研究所 / 東京大学 教授 長谷川達生先生)

+ 第 23 回アンビエント技術研究会を平成 31 年 2 月 25 日に富士フィルム (株) 東京ミッドタウン本社 201B 会議室にて開催した。参加者は 17 名。

講演 1 『フレキシブルエレクトロニクスの開発とバイオ有機デバイスへの展開』 (東京大学工学系研究科電気系工学専攻 講師 横田知之先生)

+ 第 6 回アンビエント技術セミナー「産業化が近づいたプリンテッドエレクトロニクス用材料技術の進展」を平成 30 年 10 月 5 日, 富士フィルム (株) 東京ミッドタウン本社 201A 会議室にて開催 (講演数 5 件, 参加者数: 19 名) した。

#### ・光機能性材料研究会

第 15 回光機能性材料セミナー「ペロブスカイト太陽電池 その理解と展開」を平成 30 年 8 月 30 日, 富士フィルム東京ミッドタウン本社 201B 会議室にて開催 (講演 5 件, 参加者数: 36 名) した。

#### 【科学写真研究会】

年次大会・秋季研究発表会での原子核乾板に関する研究発表を勧誘し, 年次大会で関連 17 件, 秋季研究発表会で関連 17 件の発表を行い, この分野の拡大を図った。日本写真学会誌, 解説執筆を勧誘し, 日本写真学会誌に関連する投稿論文 1 件, 解説 5 件の掲載を得た。

第 33 回固体飛跡検出器研究会を平成 31 年 3 月 24 日～25 日 日本写真学会協賛で開催した。特別・招待講演 3 件, 一般講演 19 件を得た。

#### 【天体写真研究会】

研究会発足 5 年目の本年度は, 前年と同様, 天体写真の画質に関係が深い画像技術の原理を知って作品作りのレベルアップにつなげてもらうことを目指し, 研究会を 1 回実施した。(7 月, 参加者約 30 数名)

第 6 回天体写真技術研究会 (平成 30 年 7 月 7 日) を (株) ケンコー・トキナー セミナールームにて開催した。講演 1: 『天文学用補償光学の概要』 大屋 真先生 (国立天文台) 講演 2: 『惑星モニター観測用補償光学装置の開発』 渡邊 誠先生 (岡山理科大学) 講演

3: 『アマチュアによる惑星撮像の現状』 山崎 明宏先生 (月惑星研究会 / 東大和天文同好会) 全体討議。

#### 【進歩レビュー分科会】:

専門分野別の技術進歩年次レビュー「2017 年の写真の進歩」作成を行い, 学会誌 (80 巻 3 号) に特集記事として掲載した。

#### 3-3 写真文化拡大委員会

写真文化拡大委員会の各組織は, 写真文化の啓蒙・教育の強化のため, 以下のような活動を行った。

#### 【「写真好き」のための定例講演会実行委員会】

・6 回の「写真好き」講演会を開催し, 延べ 120 名を超える参加者があった。

・写真関連の生産現場見学の一環として, (株) シグマ会津工場の見学と会津若松近郊の桜撮影スポットめぐりツアー, (株) 栃木ニコン工場見学と那須高原めぐりツアーを実施し, カメラ関係の工場見学の先陣を切り, 今後のシリーズ化の道筋を作った。

・写真を観るシリーズとして, JCII フォロサロン写真展の解説付き鑑賞会, 東京写真美術館写真展の解説付き鑑賞会を行った。

・写真関連の知識習得のシリーズとして, 東京工芸大学厚木キャンパスの「カラーラボ」の講演・解説付き見学, 富士フィルム イメージングプラザでの「デジタルカメラの画作りに関する講演会」を実施した。

#### 【PHOTONEXT 技術アカデミー実行委員会】

恒例の最新デジタルカメラシステム技術に加え, 手軽に作品印刷の楽しみを提供する出力装置としてのプリンター, 貴重な映像資産である銀塩フィルムの画像情報をデジタルデータ化して活用したり将来に残すためのノウハウ, 写真館での 4K 動画導入事例, プロ写真家の被写体 & コンセプト別の撮影機材活用方法, についての講演を実施した。幅広いユーザー層に実用的な講演演目になるよう, 共催の写真感光材料工業会や後援の (株) プロメディアと連携して講演プログラムの充実を図った。

#### 【CP + 実行委員会】

CP + 2019 では, 平成 31 年 2 月 28 日～3 月 3 日パシフィコ横浜の会場に日本写真学会単独の展示を行った。1 階コンコースの展示ホール出入口横にブースを出展し, 幅 2m, 3m, 2m の 3 面のパネルを用いて, 会長の挨拶, 目的と活動, 学会賞受賞紹介 (技術賞 2 件・東陽賞), 6 つの研究会紹介など学会活動の紹介を行いつつ会員の特典についてポスターを掲示し, 新入会員の勧誘を行った。入会申し込みが 8 名あった。

#### 【新規プリンティング技術研究会】

日本写真学会・JAGAT 印刷総合研究会共催「新刊「みんなの印刷入門」の著者によるダイジェストセミナー」を日本印刷技術協会セミナールームにて開催した。

#### 【写真史研究会】

研究会 3 年目につき, 写真並びに技術などの歴史的研究に関する研究発表を勧誘し, 年次大会で関連 2 件の発表を行い, この分野の拡大を図った。「写真好き」のための定例講演会への協力を実施した。

#### 【教育への写真応用研究会】

研究会 2 年目につき, 年次大会・秋季研究発表会での教育に関する研究発表を勧誘し, 年次大会で関連 3 件, 秋季大会で関連 1 件の発表を行い, この分野の拡大を図った。[年次大会] 国語科で育むリテラシーと写真の語り 松山雅子 (大阪教育大学), 写真を利用したインクルーシブ教育の実践報告 鈴木敬子 (神奈川県立近代美術館) 活動報告: 日本カメラ博物館 子供向けワークショップについて 山本一夫 (日本カメラ財団), 秋季大会 大学生を対象としたピア・ラーニングによる写真創作と鑑賞活動の影響 鈴木敬子 (神奈川県立近代美術館)

#### 【写真技術セミナー実行委員 (写真好きのためのワークショップ)】

・第 2 回写真好きのための講演・ワークショップとして, 写真の楽しさを学び, 写真の世界を広げる実習を通して, 写真文化拡大を担って頂く『写真のエキスパート』を増やしていく目的で, 「写真のエキスパートになろう ～プリントコース～」講習会を企画し, 2019 年度実施を計画している。

## 4. 内外の関連学協会との連絡及び協力（定款第5条（4））

## 4-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会、討論会などの実施

- 1) 東京写真月間 2018（平成 30 年 6 月 1 日写真の日を中心に 5 月～7 月に亘り開催される写真イベント：（公社）日本写真協会主催、日本写真学会以下 17 団体協賛）
- 2) PHOTONEXT2018 技術アカデミー（平成 30 年 6 月 5 日、パシフィコ横浜 2F204 室）  
日本写真学会・写真感光材料工業会共催、（株）プロメディア後援、（公社）日本写真協会、（一社）日本写真文化協会、（協）日本写真館協会、（一社）日本写真映像用品工業会、日本フォトイメージング協会協力）
- 3) 2018 年度日本写真学会年次大会 画像関連学会連合会 第 2 回合同年次大会（平成 30 年 6 月 20 日～21 日、千葉大学けやき会館：日本写真学会・画像電子学会・日本印刷学会・日本画像学会共催）
- 4) 第 55 回アイソトープ・放射線研究発表会（平成 30 年 7 月 4 日～6 日、東京大学 弥生講堂、日本アイソトープ協会主催、日本写真学会他 28 学会が協賛）
- 5) 第 15 回光機能性材料セミナー（平成 30 年 8 月 31 日、富士フィルム（株）本社 2F 会議室）、日本化学会、応用物理学会、高分子学会、光化学協会、日本画像学会、電気化学会、有機合成化学協会、画像電子学会、日本光学会、照明学会、日本色彩学会、日本印刷学会、日本表面科学会、電気学会、色材協会、電子情報通信学会、映像情報メディア学会、日本液晶学会、ナノ学会 協賛）
- 6) 第 26 回カメラ技術セミナー（平成 30 年 10 月 24 日 国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟セミナーホール、照明学会、映像情報メディア学会、電子情報通信学会、日本オプトメカトロニクス協会、電気学会、日本物理学会、日本印刷学会、日本機械学会、画像電子学会、日本画像学会、情報処理学会、精密工学会、応用物理学会、日本化学会 協賛）
- 7) 平成 30 年度画像保存セミナー（平成 30 年 10 月 26 日、東京都写真美術館ホール、日本写真芸術学会、東京都写真美術館、文化財保存修復学会、情報保存研究会、日本博物館協会、日本画像学会、日本印刷学会、画像電子学会、日本オプトメカトロニクス協会 協賛）
- 8) 画像関連学会連合会 第 5 回秋季大会（平成 30 年 11 月 15 日～17 日 京都工芸繊維大学 60 周年記念館他 画像関連学会連合会主催、京都工芸繊維大学共催）
- 9) CP + 2019 日本写真学会コナー展示（平成 31 年 2 月 28 日～3 月 3 日、パシフィコ横浜：CIPA 特別会員）
- 10) メディカルイメージング連合フォーラム 2019（平成 31 年 1 月 22 日～23 日、日本アイソトープ協会主催、日本写真学会共催、那覇 沖縄青年会館）
- 11) 第 52 回光学五学会関西支部連合講演会（平成 31 年 2 月 2 日、大阪産業大学梅田サテライトキャンパス レクチャールーム AB、主催：日本光学会関西支部・照明学会関西支部・日本色彩学会関西支部・日本分光学会関西支部・日本写真学会西部支部、協賛：電気学会関西支部、電子情報通信学会関西支部、映像情報メディア学会関西支部、レーザー学会、応用物理学会関西支部、日本画像学会関西委員会、画像電子学会、日本赤外線学会、日本照明委員会）
- 12) 2018 年度 日本写真学会・日本印刷技術協会共催「みんなの印刷入門」の著者によるダイジェストセミナー（平成 31 年 3 月 19 日 日本印刷技術協会（JAGAT）3F セミナールーム）

## 5. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条（5））

## 5-1 平成 30 年度学会賞の授与

授賞式において、平成 30 年度学会賞の授与を行った。学会賞受賞者は次の通りであった。

- |     |              |
|-----|--------------|
| 名誉賞 | 小林裕幸（千葉大学）   |
| 功績賞 | 半那純一（東京工業大学） |
| 功労賞 | 該当無し         |
| 学術賞 | 加藤隆志（富士フィルム） |

技術賞（2 件）・郷田秀樹・岡田尚大・古澤直子・中山慎・渡辺泰宏・中野寧（コニカミノルタ）・権田幸祐（東北大学）・藤井武・杉山憲志（富士フィルム）

論文賞（2 件）・田中優貴・山田勝実（東京工芸大学）・赤穂莉奈・廣瀬未紗・津村徳道（千葉大学）

進歩賞 有賀智子（九州大学）

東陽賞 白岩洋子（紙本・写真修復家、白岩修復工房）

会長表彰 該当無し

## 5-2 平成 30 年度コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励金（写真研究奨励金）授与

授賞式において、平成 30 年度コニカミノルタ写真研究奨励金の授与を行った。

交付対象者 有賀智子（九州大学）

## 5-3 平成 30 年度日本写真学会小島裕研究奨励金の授与

授賞式において平成 30 年度日本写真学会小島裕研究奨励金の授与を行った。

交付対象者 小林珠里（写真家）

## 5-4 平成 31 年度学会賞選考

平成 31 年度の学会賞は、各選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。

名誉賞 該当無し

功績賞 該当無し

功労賞 大川祐輔（千葉大学）

学術賞 飯野裕明（東京工業大学）

技術賞（2 件）宮田正人・島崎泰成・田嶋智之・堀内円嘉（オリンパス）市川芳樹（ニコン）

論文賞（2 件）久下謙一・安達考洋（千葉大学）矢島仁・佐々木麻衣子・山田勝実（東京工芸大学）

進歩賞 該当無し

東陽賞 斎藤多喜夫（横浜外国人居留地研究会会長）

会長表彰 該当無し

## 5-5 平成 31 年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考

平成 31 年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金は、選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。

交付対象者 福田努（名古屋大学）

## 5-6 平成 31 年度日本写真学会小島裕研究奨励金交付対象者の選考

平成 31 年度日本写真学会小島裕研究奨励金は、選考委員会の推薦を受け、次のように理事会で決定した。

交付対象者 土生祐介（陣馬写真工業）

## 6. その他目的を達するために必要な事項（定款第5条（6））

## 6-1 総会（1 回）

平成 30 年 6 月 20 日（水）千葉大学 西千葉キャンパスけやき会館 3 階レセプションホールにおいて一般社団法人化に移行後 7 回目の定時社員総会が開催され、平成 29 年度事業報告、平成 29 年度決算報告並びに会計監査報告、平成 30 年度事業計画案、平成 30 年度収支予算案、平成 30 年度役員等の選任（臨時理事会による会長・副会長選任の報告含む）、会員の除名の計 6 件の議案が承認された。

## 6-2 理事会（7 回）

隔月定例に開催し、本学会の運営に必要な事項を審議した。

## 1) 会務分担

役員及び会務の分担は次の通りであった。

## ・理事：

会長（写真学会代表理事、画像連合会 2019 年度議長、画像連合会代議員） 中野寧（コニカミノルタ）

副会長（写真学会代表理事、企画委員長、編集委員長）

山田勝実（東京工芸大学）

副会長（写真学会代表理事、技術委員長、画像連合会代議員、

光機能性材料研究会主査）加藤隆志（富士フィルム）

画像保存部会長 大関勝久（国立映画アーカイブ、名古屋大学）

財務委員長、写真技術セミナー・デジタル写真基礎講座主査

甲田謙一（日本大学）  
 PHOTNEXT 技術、カメラ技術研究会、写真好きのため定例講演会 鈴木博文（ニコン）  
 アンビエント技術部会部会長、アンビエント技術研究会主査、国際化委員長 / FISCIAI 委員 半那純一（東京工業大学）  
 新規プリンティングセミナー担当 郡司秀明（日本印刷技術協会）  
 2019 年次大会実行委員長・プログラム委員長、副編集委員長 久下謙一（千葉大学）  
 秋季大会実行委員 中川邦弘（三菱製紙）  
 財務副委員長、アンビエント技術副主査・2019 年次大会実行委員 飯野裕明（東京工業大学）  
 総務理事、広報委員長、カメラ技術研究会 松澤良紀（オリンパス）  
 天体写真技術研究会副主査、写真のエキスパートになろう講習会委員 蒔田剛（キヤノン）  
 副技術委員長、科学写真研究会委員 吉田哲夫（名古屋大学）  
 西部支部長、合同秋季大会実行委員長 岩崎仁（京都工芸繊維大学）  
 庶務委員長、進歩レビュー分科会主査、文化財写真ガイドライン担当 吉田英明（オリンパス）  
 写真文化拡大委員会副委員長、写真のエキスパートになろう講習会委員 西澤敦（セイコーエプソン）  
 写真史・写真技術史研究会主査 白山眞理（日本カメラ財団）  
 広報副委員長、画像保存研究会・デジタルアーカイブ研究会主査 清野晶宏（IMAGICA Lab.）  
 財務副委員長 今泉祥子（千葉大学）  
 ・ 監事  
 写真史・写真技術史研究会副主査 高田俊二（千葉大学）  
 画像入出力部会長 豊田堅二（日本大学）  
 ・ フェロー  
 写真文化拡大委員長、写真好き講演会実行委員長、表現と技術研究会他 小林裕幸（千葉大学）  
 光機能性材料研究会 谷忠昭（元富士フィルム）  
 ・ 幹事：  
 広報副委員長 桑山哲郎（千葉大学）  
 画像入出力部会長 豊田堅二（日本大学）  
 画像保存部会副部会長・画像保存研究会主査 山口孝子（東京写真美術館）  
 画像保存部会・画像保存研究会 高橋則英（日本大学）  
 画像保存部会・デジタルアーカイブ研究会主査 清野晶宏（IMAGICA Lab.）  
 アンビエント画像部会長 津村徳道（千葉大学）  
 医用画像副部会長 桑原孝夫（富士フィルム）  
 医用画像研究会 松本政雄（大阪大学）  
 アンビエント技術研究会副主査・光機能性材料研究会 稲垣由夫（富士フィルム）  
 アンビエント技術研究会副主査 飯野裕明（東京工業大学）  
 アンビエント技術研究会副主査 宮本公明（富士フィルム）  
 アンビエント技術研究会・光機能性材料研究会 内田孝幸（東京工芸大学）  
 写真文化拡大部会・画像入出力部会 大川泰輔（セイコーエプソン）  
 広報委員会ホームページ特命 大川裕輔（千葉大学）  
 写真文化拡大 松下艶子（ニコン）  
 年次大会実行委員 田中里実（日本大学）  
 写真エキスパート講習会委員 吉野弘章（東京工芸大学）  
 科学写真研究会副主査 中竜大（名古屋大学）  
 科学写真研究会 山下清司（元富士フィルム）  
 科学写真研究会 河合 清（富士フィルム）  
 ・ 事務局長（兼）会勢拡大委員長 山岸 治

- 2) 役員研修会（8月）  
 会長以下の役員が研修会を開催し、本学会の会勢拡大の具体的な進め方について議論した。  
 （平成 30 年 8 月 28 日（火） 富士フィルム東京ミッドタウン本社 2 階 201B 会議室）  
 ・ 役員研修課題：『会員増員計画』について（講演研究事業（研究会・セミナー）での会員増員計画）  
 ・ 最近の研究会・セミナー別の新規入会者データ解説『アンビエント技術研究会・光機能材料セミナー』『科学写真研究会』『天体写真技術研究会』（塩田主査／蒔田副主査）15：00～15：20 <資料 Y03-3 >『画像保存セミナー』『写真文化拡大委員会』：「写真好きのための講演会」、「写真のエキスパート プリントコース」  
 『カメラ業界関係者基礎講座・写真家ワークフロー講座（新規）』  
 ・ 大学・学生の会員増員計画に関する提案と役員での具体化に向けた討議を行った。
- 6-3 支部の運営に関する会議
- 1) 西部支部幹事会  
 幹事会を開催し、西部支部活動の企画、準備および支部運営に関する協議を行った。
- 6-4 各委員会
- 1) 役員等選考委員会  
 役員等の選考を行った。
- 2) 人事委員会  
 学会職員の勤務状況と処遇についての協議を行い、来年度の処遇を決定した。
- 3) 庶務委員会  
 平成 28 年度事業報告並びに平成 29 年度事業計画案の総会承認を得た。活動計画表、組織系統図を更新した。平成 29 年度事業報告案並びに平成 30 年度事業計画案を作成し、理事会承認を得た。
- 4) 財務委員会（2 回）  
 平成 29 年度決算報告並びに平成 30 年度予算案の総会承認を得た。平成 30 年度中間決算内容を審議し承認した。学会各事業活動の改善状況、特に財務改善の検討を行った。平成 30 年度決算報告並びに平成 31 年度予算案を作成し、理事会承認を得た。
- 5) 編集委員会（4 回）  
 学会誌の編集方針、特集記事の企画検討、「解説」、「口絵」、「写真のある美術館・博物館・資料館」などの著者選定を行った。投稿論文の勧誘を行い、掲載論文数の増加を図った。英文論文誌 BSPIJ (BULLETIN OF THE SOCIETY OF PHOTOGRAPHY AND IMAGING OF JAPAN) を Web 版として発行した。
- 6) 技術委員会  
 本年度も引き続き、部会長・研究会主査会議の議論を基に、各部会・研究会にて研究会活動の活性化のための具体的活動に展開した。成果として、年次大会、秋季大会においける発表の活性化と新規会員の獲得が図れた。また、重要課題においては代表理事会において議論し、活動の方向づけを適宜実施した。
- 7) 写真文化拡大委員会  
 委員会の役割を実現できるようメンバーを決めた。
- 8) 企画実行委員会  
 企画担当副会長が、代表理事会にて新規事業の企画ならび実行を検討し、今年度は、写真史研究会、と教育への写真応用研究会の主査・副主査の選任を具体的活動の協議を行った。
- 9) 国際交流委員会  
 画像関連学会連合会代議員会で、画像電子学会・日本印刷学会・日本画像学会と共催で、合同年次大会内で、国際会議デイの開催の具体化を検討し、2019 年度は、合同年次大会での miniIC-AI（イメージング国際会議）の開催を行う様に、手配・準備を行った。

2020年のICAI2020開催に向け、プリプログラム委員会を創設し、具体化検討に着手した。

#### 10) 広報委員会

- ・ホームページのタイムリーな更新と新たな運用を行うことにより、会員への情報提供サービス向上を図って来た。トップページの「更新情報」では、日本写真学会がこれから開催するイベントを最上部に簡潔に記載し、空白スペースの後にその他の更新情報を掲載することで、参加受け付け中のイベントに対する注目度を高めている。また、「最新イベント情報」には主催イベントだけでなく協賛イベントを掲載することで、引き続き画像関連の学会の活動の全容が見えるようにしている。「写真のある美術館・博物館・資料館」の企画に連動し、開催中あるいは開催予定のイベント広報ページをpdfファイルで作成し、リンクを用いて各イベントのWebサイトにアクセスできるというサービスも実施している。学会誌刊行に同期し「画像からくり」の内容のカラー図版を都度ホームページ上で公開した。英文論文誌の年2回の発行は、英文論文のpdfファイルと、pdfファイルによる暫定版の英文論文誌トップページを開催することでやっている。
- ・ホームページ改革推進委員会では、英文論文へのアクセス性や会員への情報提供のサービスの向上を意図した新ホームページを2019年度早々に公開するための準備を行った。平成31年3月1日に試行ホームページをアップロードし、現在のホームページからの移行作業を進めている。
- ・「CP+2019」では、学会活動紹介のブース展示を行い、新入会員の勧誘を行った(3-3の【CP+実行委員会】の項参照)。

#### 11) 会勢拡大委員会

- ・役員研修課題：「会員増員計画」に関する議論をベースに、講演研究事業(研究会・セミナー)での会員増員計画およびCP+2019の写真学会ブース展示での学会活動紹介PR活動、大学・学生の会員増員計画を各担当研究会・委員会および編集委員会での活動を通して、会員増員計画を目標に、会勢拡大を図ることとした。会員増員計画の今年度末までの効果検証で、計38名の入会者となり、今年度合計で70名の正会員入会者を獲得した。
- ・賛助会員増員について、シニアエンジニア・研究者による技術講演やコンサルティング活動を通しての賛助会員獲得活動に結び付ける。

#### 6-5 特務担当

##### 1) 画像関連学会連合会

画像関連学会連合会代議員に代表理事2名(中野会長、加藤副会長)および山岸事務局長が幹事として参画して、画像関連連合会合同秋季大会、画像関連連合会合大会、画像関連連合会国際化およびその他の連合会課題に関して、討議を行い、理事会承認の元に、連合活動を推進した。

##### 2) 科学技術振興機構

科学技術振興機構による学会誌の電子アーカイブ事業に基づいて、昨年度に引き続き、科学技術振興機構と共同で日本写真学会誌の電子化を行った。

##### 3) 日本写真学会90周年記念事業

平成30年度は、90周年記念事業の継続実施として90周年記念ホームページ改革をホームページ改革推進ワーキンググループを組織し、会員への情報受発信の充実のためのホームページ構成を決め、業者選定と発注を行った。

##### 4) 画像関連学会連合会：3Dタスクフォース活動

画像関連学会連合会の分科活動として「3Dプリンティング」に関する調査・検討活動を継続している。2018年度は、活動がなかった。(担当：桑山幹事)

#### 7. 会勢

本年度末(平成31年3月31日現在)における会員の異動状況は、次の通りである。

	本年度末 (平成31年3月31日現在)	前年度末 (平成30年3月31日時点)	増減
正会員	675名	701名	26名減
賛助会員	35社	35社	±0
購読会員	17社	17社	±0
合計	727名	753名	26名減

以上

#### 【第2号議案】平成30年度決算報告並びに会計監査報告 (P●ページ参照)

#### 【第3号議案】2019年(令和元年)度事業計画

##### 1. 基本方針(定款第4条)

- 1) 事業収支改善のために研究講演事業、学会誌刊行事業、法人管理事業の確実な遂行により回復基調を継続的に実施できる事業計画の立案を行う。
- 2) 写真に関する基盤技術の深耕と基盤技術から更に次世代の画像情報分野への領域拡大の為に、①高度情報通信社会に適合する次世代の画像映像情報分野の技術としてのアンビエント技術研究会、光機能性材料研究会、②デジタルも含めた画像保存部会及び最新の医用分野での医用画像部会、③写真産業を支える画像情報技術としての画像入出力部会と写真文化拡大のための技術として写真文化拡大部会の6部会に天体写真技術研究会と科学写真研究会および新規立上げの写真史研究会・教育への写真応用研究会を加えた部会・研究会活動を通して会員拡大を行う。これらの技部会活動推進の為、年次大会・研究会・セミナー・学会誌刊行・電子広報の充実及び画像関連学会連合会での所属学会との連携強化と関連する工業会・協会との連携強化を目指す。
- 3) 会勢拡大=会員増加策を研究会および実行委員会単位で課題化し、施策展開を行う。
- 4) 写真及び画像に関する技術領域を拡大し、研究成果の発表及び関連情報提供の為、写真学会誌の充実と学術図書の刊行を行う。
- 5) 会員へのサービスを第一義としながら社会公益性の観点からも学会の運営を行う。
- 6) 以下のことを特に本年度の重要課題として位置付け、行動する。
  - ①画像入出力部会、アンビエント画像部会、医用画像部会、画像保存部会、アンビエント技術部会、写真文化拡大部会の6つに再編された技術部会と各研究会とセミナー等の実行委員会を組織化して、調査・研究の充実化を図る。
  - ②写真文化拡大委員会を組織化して、写真文化の裾野拡大施策の充実化を図る。
  - ③画像関連学会連合会合同秋季大会の実施と次年度合同年次大会の企画を行う。
  - ④各技術部会での新規技術領域の調査・研究の充実化を図る。
  - ⑤写真好きの写真愛好者を対象にした、写真知識・写真文化の会勢拡大を図る。
  - ⑥学会誌の充実の為、英文論文誌の発行及び投稿数の拡大を図る施策を検討する。
  - ⑦ホームページおよび会員管理システムのリニューアルで会員サービスの向上を図る。

##### 2. 学会誌・学術図書及び資料の刊行(定款第5条(1))

###### 2-1 学会誌の刊行

- 1) 学会誌を年間4冊発行する。
- 2) 年次大会や秋季研究報告会の要旨集を学会誌に掲載し発行する。

3) 論文投稿を積極的に勧誘し、親切な審査により質の高い論文を数多く掲載する。あわせて投稿料収入の増加を図る。

2-2 英文論文誌「Bulletin of the Society of Photography and Imaging of Japan」の刊行

1) 6, 12月発行予定の英文の論文誌をweb誌として発行し、論文の投稿を積極的に呼びかける。

2) 英文誌に掲載された論文の題目や著者を分野別に整理した上で、画像4学会の会員に電子メールでお知らせする。

3. 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条（2））

3-1 研究発表会、講演会などの実施

1) 第7回天体写真技術研究会（2019年5月末予定：ソニー（株）大崎）

2) PHOTONEXT 技術アカデミー（2019年6月18日、パシフィコ横浜）

3) 2019年年度大会／画像関連学会連合会合同大会（2019年7月4日－5日、千葉大学西千葉キャンパスけやき会館他）

4) 「写真好き」のためのカメラ・交換レンズ工場見学（2019年6月以降、詳細未定）

5) 「写真好き」のためのレンズ工場見学第3弾（2019年7月以降、詳細未定）

6) 「写真好き」のための定例講演会「画像出力技術と表現技術」（2019年7月以降、詳細未定）

7) カメラ業界向け技術講座（詳細未定）

8) 第16回光機能性材料セミナー（2019年8月29日予定、富士フイルム本社）

9) 第7回アンビエント技術セミナー（2019年10月予定：富士フイルム本社）

10) 第27回カメラ技術セミナー（2019年11月6日 KFCホールAnnex）

11) 画像保存セミナー（2019年11月予定 東京都写真美術館ホール）

12) 画像関連連合会秋季大会（2019年10月31日－11月1日 京都工芸繊維大）

13) 「写真好き」のための定例講演会（2019年度6回予定、詳細未定）

14) アンビエント技術研究会（平成31年度2回予定、詳細未定）

15) 第53回光学五学会関西支部連合講演会（詳細未定）

16) 2019年度「写真のエキスパートになろう！」講習会（2019年、詳細未定）

17) 科学写真研究会セミナー（2019年、詳細未定）

18) 第3回原子核乾板技術研究発表会（2019年、詳細未定）

19) プリント技術セミナー（2020年、詳細未定）

3-2 新規事業  
平成30年度役員研修会のテーマ『会員増員計画』についての議論から、会員増加に向けての課題、施策を議論する中から、会員増に結びつく、写真文化拡大委員会や新規研究会（技術講座）の立上げと既存事業の充実を通して事業の具体化をを推進する。

(1) 写真文化拡大委員会は、写真文化の啓蒙・教育活動全体を統括し、技術委員会の個々の技術技部会・研究会と連携して活動する。

(2) 研究分野拡大のため、一昨年度に活動開始した天体写真技術研究会や科学写真研究会の充実発展を進めると共に、昨年度に新設した「写真史研究会」と「教育への写真応用研究会」の活動の具体化を行う。

(3) 「写真」の基礎的な、理論や技術を学び、写真の楽しさを感じて、写真作品をより多くの人に見せる楽しさや、自身の写真の世界を広げる知識習得・実習を受講し、「写真」の文化をより広く普及して行く人材育成の為に『カメラ業界関係者基礎講座・写真家ワークフロー講座』を新規に行う。

(4) 最先端画像技術を取り入れる研究会創設が必要で、技術委員会で具体化に向けた調査や核となる先生の探索などを検討する。

(5) アンビエント技術部会（アンビエント技術研究会／光機能性材料研究会）

・研究会の活動内容と写真学会の活動状況に会員特典などを入れたPR文書（フライヤー）を作り会員化勧誘活動に使用する。この時、渡す相手と渡し方がポイントとなるので検討する。

(6) 科学写真研究会

・センサーや分析・解析技術を主にしたミューオングラフィーをベースに名古屋大主要メンバーにインタビューして、研究会への期待する内容と協力できる内容の検討を行う。

(7) 天体写真技術研究会

・天体写真は裾野が広く、会員候補は多い。研究会活動の内容も充実しており、今後も継続する。

(8) カメラ業界関係者基礎講座・写真家ワークフロー講座（新規提案）

(9) 大学関係者の会員増

・各大学への投稿勧誘文書を作成し会長名で発行する様検討する。

・DOI所得のための経費見積りを行うと共に、審査・投稿料軽減の価格を検討する。

・年次大会・秋季大会や講演会・セミナー参加者への投稿勧誘策を検討する。

4. 研究及び調査の実施（定款第5条（3））

4-1 技術委員会専門研究会活動の実施

技術委員会の中に本学会の主要科学技術分野別の部会・研究会を設け、以下の活動を行うことにより、本学会会員の研究の発展と資質の向上並びに会員の増強をはかる。

特に、本学会が取り組む技術分野の拡大・充実化並びに写真で培った基盤技術の深耕・展開と写真愛好家層への学会活動の充実をはかるために、新設した写真史研究会、教育への写真応用研究会の活動を写真文化拡大委員会と協働して活性化する。

【画像入出力部会】

部会の研究会活動を活性化する。

・画像入出力研究会：年次大会の企画・運営に参加する。

・カメラ技術研究会：年7回の研究会を開催する。「カメラ技術セミナー」を企画・運営する。学会誌の「2018年のカメラ」、「写真の進歩」などの執筆に協力する。年次大会の運営に協力する。

・表現と技術研究会：年に数回の研究会を開催し、銀塩プリントとデジタルプリントに関してのディスカッションを行う。銀塩プリントとデジタルプリントの比較評価を行う。

【アンビエント画像部会】

傘下の研究会はアンビエント画像研究会のみであり、本年度も部会と一体で活動する。

・アンビエント画像研究会：研究会活動内容の再検討を行う。年次大会・秋季大会の企画・運営に参加する。

【医用画像部会】

傘下の研究会は医用画像研究会のみであり、本年度も部会と一体で活動する。他学会との協賛等を模索する方針は継続。

・医用画像研究会：他の医用画像関係の学会とともにメディカルイメージング連合フォーラムを共催する。本フォーラムは医用画像に関連するイメージサイエンス・画像情報理論・像形成理論、人体その他の生体の画像の生成理論と実現技術に関する学会。

【画像保存部会】

下記、2つの研究会とともに画像保存への取り組みを推進するとともに、学会HP、学会誌にて活動を広く周知する。

・画像保存研究会：平成31年度画像保存セミナーを企画、実行する。勉強会実施の準備を行う。

・デジタルアーカイブ研究会

デジタル画像の保存とその技術についての勉強会を実施し、急速に進展するデジタル分野の情報を収集、発信する。

画像保存研究会と協力して、平成31年度の画像保存セミナーを企画、実行する。

- ・「文化財写真の保存に関するガイドライン」の改訂版を発行する。

#### 【アンビエント技術部会】

光機能材料研究会とアンビエント技術研究会の両輪で、材料系研究における活動基盤づくりを進め、学会内外への研究会活動を展開と其々の講演研究事業の実施と年次大会および秋季大会においてアンビエント技術セッションを企画する。

#### ・アンビエント技術研究会

会員内外の参加を目的とした研究会の開催を行う。(2回開催予定)第6回アンビエント技術セミナーを企画開催する。研究会の成果を学会誌に特集企画する。

#### ・光機能性材料研究会

第16回光機能性材料セミナーを企画開催する。研究会の成果を学会誌に特集企画する。

#### 【科学写真研究会】

原子核乾板技術分野を中心に科学写真系研究における活動基盤づくりを進め、学会内外への研究会活動の展開とセミナー等の講演研究事業の実施と年次大会、秋季大会および国際学会での発表、学会誌への投稿を企画する。固体飛跡検出器研究会との連携を進め、研究会の開催等を企画する。原子核乾板などの科学写真に関して、年次大会・秋季大会での研究発表と、成果の学会誌への投稿を関係者に促す。銀塩写真技術の専門家と原子核乾板利用者との技術交流を深める発表会・講演会等の企画を行う。

#### 【天体写真研究会】

天体写真技術研究会は、学会員向けの「画像技術の原理を知って作品作りのレベルアップにつなげてもらうことを目指した研究会」を、2回程度実施する。今年度は、最近の技術進歩で画質や精度が向上している撮影対象について、その作品の動向とそれを支える技術の中身の解説をセットで紹介して、今後の課題を議論するスタイルを目指していく。

#### 【写真史研究会】

日本写真学会年次大会への写真史・技術史研究発表、並びに、学会誌への論文投稿誘致を推進する。「写真好き」のための定例講演会の企画へ協力していく。

#### 【教育への写真応用研究会】

教育、福祉、医療など幅広い分野から写真活動の実践者をお招きし、年2回程度指導者研修を行う。

誰もが実践可能なワークブックを作成し、普及活動を行う。講師派遣などの要望に応える。

#### 【進歩レビュー分科会】:

専門分野別の年次レビュー「写真の進歩」作成を行い、学会誌上で報告し、学会ホームページに掲載する。

#### 4-2 写真文化拡大委員会活動の実施

会員が気軽に写真表現、写真撮影の工夫などを学び、発表できる場を提供し、広く社会に写真文化の啓蒙および教育を目的に写真文化拡大委員会を創設し、写真文化拡大部会の既存の委員会と新設した委員会などの傘下の各組織は、以下のような活動を行う。

#### 【「写真好き」のための定例講演会実行委員会】

- ・写真文化拡大委員会の方針に則り、2012年から続く「写真好き」のための定例講演会36回の参加者および新規対象者に興味を持って頂ける企画の充実化を図る。6回/年の実施を目標にする。

#### 【PHOTONEXT 技術アカデミー実行委員会】

- ・カメラシステムの最新技術紹介だけでなく技術進化に伴うカメラの現状を総括するような講演を企画する。あわせて、デジタル画像を扱う上での基礎知識や出力装置の活用法、撮影シーン毎のカメラ使いこなし術といった、映像表現や出力方法のノウハウを幅広いユーザー層に提供できるような講演演目を目指して、共催の写真感光材料工業会や後援の(株)プロメディアと連携して講演プログラムの充実を図る。

#### 【CP + 実行委員会】

- ・CIPA との関係から、日本写真学会単独ブースでの学会広報展示と学会活動のPRを行い、新規会員獲得の場とする。

#### 【写真史研究会】

写真並びに技術などの歴史的研究に関する研究発表を勧誘し、年次大会や秋季大会での発表を行う。

#### 【教育への写真応用研究会】

教育への写真応用に関する研究発表を勧誘し、年次大会や秋季大会での発表を行う。

#### 【写真技術セミナー実行委員会(写真好きのためのワークショップ)】

- ・写真文化拡大委員会の方針に則り、昨年度実施した「写真」の基礎的な、理論や技術を学び、写真の楽しさを感じていただき、写真作品をより多くの人に見せる楽しさや、自身の写真の世界を広げる実習を通して、『写真のエキスパート』となって頂き、講習会で得たことをベースに、「写真」の文化をより広く、普及して行く人材育成を目的にした「写真のエキスパートになろう～プリントコース～」として、「写真を作る」主体の写真好きのためのワークショップに「写真を観る」ことを加えた講習会を実施した。今年度も、企画実施を行う。「写真のエキスパートになろう～プリントコース～」の第二弾の企画・実施を行う。

#### 【デジタル写真基礎講座実行委員会】

- ・デジタル写真基礎講座の主要テーマの「画像処理」については、「写真のエキスパートになろう～プリントコース～」にて取り入れたため、「写真好き」のための定例講演会等を通して、写真好きの層のニーズ探索を行う。

#### 【新規プリンティング技術研究会】

- ・デジタル印刷における最新の写真表現技術動向を基礎から応用まで解説するプリント技術セミナーを企画実施する。

#### 5. 内外の関連学協会との連絡及び協力(定款第5条(4))

#### 5-1 関連学協会との連絡協力による研究発表会、討論会などの実施

- 1) 画像関連学協会連合会(日本画像・日本印刷・画像電子・日本写真の各学会)代議員会を引き続き推進し、今年度の第2回合同大会/年次大会および第6回合同秋季大会の開催、次世代技術領域の創成活動の具体化および合同研究会の創設等の課題の具体化を図り、画像関連学協会連合会の連携領域の強化をはかる。
- 2) PHOTONEXT 技術アカデミー(2019年6月18日、パシフィック横浜、写真感光材料工業会共催、写真関連諸団体協賛)
- 3) 第16回光機能性材料セミナー(2019年8月、富士フイルム本社、日本化学会・応用物理学会・高分子学会他20学協会協賛)
- 4) アンビエント技術セミナー(2019年10月予定:富士フイルム本社、日本化学会・応用物理学会・高分子学会他20学協会協賛)
- 5) 第27回カメラ技術セミナー(2019年11月6日 KFC ホール Annex、照明学会、電気学会、日本物理学会、日本機械学会等14学協会協賛)
- 6) 画像保存セミナー(2019年11月予定 東京都写真美術館ホール、日本写真芸術学会、東京都写真美術館、文化財保存修復学会等9学協会協賛)
- 7) 画像関連連合会秋季大会(2019年10月31日ー11月1日 京都工芸繊維大、画像関連学協会連合会主催、京都工芸繊維大学共催)
- 8) 第53回光学五学会関西支部連合講演会(詳細未定、光学五学会関西支部主催)
- 9) 科学写真研究会セミナー(2019年、詳細未定、名古屋大学・東邦大学・千葉大学他)
- 10) プリント技術セミナー(2020年、詳細未定、日本印刷技術協会共催)
- 11) 2019年度「写真のエキスパートになろう!」講習会(詳細未定、カメラ映像機器工業会・写真感光材料工業会協力)
- 12) 科学写真研究会セミナー(詳細未定、日本化学会・応用物理学会・高分子学会他20学協会協賛)
- 13) プリント技術セミナー(詳細未定、印刷技術協会共催)
- 14) CP + 2020 日本写真学会展示(詳細未定、カメラ映像機器工業会主催、日本写真学会特別会員)
- 15) 第56回アイソトープ・放射線研究発表会(詳細未定、日本ア

- イトープ協会主催、日本写真学会や他学会と協賛)
- 16) 第3回天体写真技術セミナー(詳細不明(公社)日本天文学会、国立天文台等9団体協賛、(公社)日本写真協会、(一社)日本写真文化協会協力)
- 17) メディカルイメージング連合フォーラム2020(詳細不明、日本イトープ協会主催、日本写真学会共催)
- 18) 第34回固体飛跡検出器研究会(詳細未定、固体飛跡検出器研究会主催、日本写真学会共催または協賛)
- 5-2 国際交流に関する事項
- 1) 2019年度画像関連学会連合会合同大会での国際会議DAY(International Conference on Advanced Imaging(ICAI2019))を実施することを画像関連学会連合会代議員会にて検討する。
- 2) 2020年ICAI(The International Conference on Advanced Imaging(ICAI2020))のプレプログラム委員会を設立し、具体化検討を行う。
6. 研究の奨励および研究業績の表彰(定款第5条(5))
- 6-1 2019年度学会賞(功績賞、功労賞、学術賞、技術賞、論文賞、進歩賞、東陽賞、会長表彰)の授与。
- 6-2 2019年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金の授与
- 6-3 2019年度小島裕研究奨励金の授与
- 6-4 2020年度学会賞(名誉賞、功績賞、功労賞、学術賞、技術賞、論文賞、進歩賞、東陽賞、会長表彰)受賞者の選考
- 6-5 2020年度コニカミノルタ科学技術振興財団写真研究奨励金交付対象者の選考
- 6-6 2020年度小島裕研究奨励金交付対象者の選考
- 6-7 名誉会員の推薦、永年会員の認証
- 6-8 フェローの推薦と認証
7. その他目的を達するために必要な事項(定款第5条(6))
- 7-1 運営に関する会議  
第7回社員総会(平成31年5月21日)、理事会(年7回)、役員研修会(年1回)、学会賞選考委員会(年1回)、代表理事会(年10回)、財務委員会(年2回)および庶務委員会、人事委員会(適時)、その他。
- 7-2 編集委員会(年4回)  
学会誌の編集方針、内容の更新、特集・各種記事の企画、論文審査体制、著作権の整備などの検討を行う。平常業務は電子メールを活用し、委員間の意見交換を随時行う。会員からの学会誌に関する意見聴取につとめる。学会誌の電子ジャーナル化作業を引き続き行い、同時に投稿を呼びかける。英文論文誌の掲載論文数を増加させるための方法を検討する。
- 7-3 技術委員会  
定期的に各技術部会・研究会の代表者が集まり(電子メールによる会議含む)、研究会の活性化及び活動状況等の情報交換を行う。又、研究会、講演会、セミナーなどを適宜開催し、広く本学会内外に活動状況を提示することにより、本学会における当該科学技術分野の向上を図る。さらに年次大会、秋季大会でのプログラム委員活動を通じて研究発表を活性化し、技術分野の偏在の解消を引き続き推進する。
- 7-4 写真文化拡大委員会  
写真学会と一般の写真愛好家、写真大学を中心とした学生との交流を中心としつつ、カメラ好きの女性にまで対象を広げていくべく活動を行っていく。用紙の選択肢が広がっている環境下において、撮影からプリントまで、RAWデータの扱い方を含めたプリントの基礎講座のような、専門家以外の方々を対象にした企画を行い、参加者に写真学会の存在をアピールできる活動を行ってゆく。写真学会の専門性を活かし、一般人との垣根を低くする活動を行う。
- 7-5 企画実行委員会  
新規技術領域の講演研究事業の企画ならびに実行推進にあたるため、会長、企画担当副会長、技術担当副会長の代表理事からなる当委員会、具体策の検討を図る。又、写真文化拡大活動を画像入出力部会・写真文化拡大部会が連携して進めると共に、

関連学会との連携強化を検討と実行推進を図る。

- 7-6 国際交流委員会  
2019年画像関連学会連合会合同大会の中で、miniICAI(The International Conference on Advanced Imaging(ICAI2019))を連合会年次大会実行委員ならびに国際関係対応実行委員で行う。  
平行して、2020年ICAI(The International Conference on Advanced Imaging(ICAI2020))のプレプログラム委員会を設立し、具体化検討を行う。
- 7-7 広報委員会  
ホームページの改善および会員へのタイムリーな情報の発信を継続的に行う。英文論文掲載の利便性などの課題に対応し、ホームページの更新を行う。また、写真関係のイベント等を通じ、一般の方々へ本会の紹介を積極的に行う。
- 7-8 会勢拡大委員会  
会勢拡大施策の企画ならびに実行推進にあたるため、会長、企画担当副会長、技術担当副会長の代表理事からなる当委員会、学会活動の通して会勢拡大の為の具体策の検討を図る。各種講演会、セミナーでの正会員勧誘に加え、役員主導の勧誘活動を行う。又、賛助会員についても、カメラ関連、画像関連など、従来非会員であった分野にも役員主導で積極的に働きかける。また、新規技術部会、研究会のメンバー拡大を図り、部会・研究会の活性化を図る。
- 7-9 画像関連学会連合会関連委員会  
画像電子学会、日本印刷学会、日本画像学会と日本写真学会の会長・副会長からなる2019年度の代議員会を適宜実施し、4学会協同事業として、2019年画像関連学会連合会合同大会(2019年7月、千葉大学)と第6回画像関連学会連合会秋季大会(2019年11月、京都工芸繊維大学)の内容の検討を行う。
- 7-10 科学技術振興機構電子アーカイブ事業  
科学技術振興機構による学会誌の電子アーカイブ事業に基づく例年の作業として、科学技術振興機構と共同で日本写真学会誌の電子化を行う。

以上

#### 【第4号議案】平成31年度収支予算 (P●ページ参照)

#### 【第5号議案】2019年(令和元年)度役員等の選任

1. 新役員候補者(敬称略)
- 1-1 新役員候補者(敬称略)
- 1) 理事 10名  
西澤 敦(セイコーエプソン) 大関 勝久(国立映画アーカイブ)  
郡司 秀明(日本印刷技術協会) 蒔田 剛(キヤノン)  
松澤 良紀(オリンパス) 加藤 隆志(富士フイルム)  
中野 寧(コニカミノルタ) 半那 純一(東京工業大学)  
白山 眞理(日本カメラ財団) 飯野 裕明(東京工業大学)
- 2) 監事 1名  
豊田 堅二(日本大学)
- 1-2 残留役員(敬称略)
- 1) 理事 10名  
今泉 祥子(千葉大学) 岩崎 仁(京都工芸繊維大学)  
久下 謙一(千葉大学) 甲田 謙一(日本大学)  
鈴木 博文(ニコン) 清野 晶宏(IMAGICA Lab.)  
中川 邦弘(三菱製紙) 山田 勝実(東京工芸大学)  
吉田 哲夫(名古屋大学) 吉田 英明(オリンパス)
- 2) 監事 1名  
高田 俊二(千葉大学)
- 参考
2. 令和1年度評議員
- 1) 令和1年度委嘱 15名

- 大野 隆司（千葉大学）五十嵐 人志（セイコーエプソン）（新任）  
 内田 雅文（コニカミノルタ）（新任）川崎 三津夫（京都大学）（新任）  
 久保田 敏弘（京都工芸繊維大学）後藤 哲朗（ニコン）  
 古森 重隆（富士フィルムホールディングス）酒井 克之（東京工芸大学）（新任）  
 島田 文生（コニカミノルタ科学振興財団）高田 俊二（千葉大学）（新任）  
 戸倉 剛（キヤノン）（新任）原 直久（日本大学）  
 藤嶋 昭（東京理科大）三宅 洋一（東京工芸大学）  
 義江 龍一郎（東京工芸大学）
- 2) 残留評議員 8名  
 阿部 隆夫（信州大学）有馬 登（三菱製紙）  
 伊沢 太郎（凸版印刷）小川 治男（オリンパス）  
 金田 英治（日本写真学会フェロー）鈴木 邦夫（三菱製紙）  
 谷 忠昭（日本写真学会フェロー）三谷 公二（日本放送協会放送技術研究所）
3. 幹事  
 本部：19名  
 稲垣 由夫（元富士フィルム）岩本 康平（元セイコーエプソン）  
 内田 孝幸（東京工芸大学）大川 泰輔（セイコーエプソン）  
 大川 裕輔（千葉大学）河合 清（富士フィルム）  
 桑原 孝夫（富士フィルム）桑山 哲郎（千葉大学）  
 鈴木 敬子（神奈川県立近代美術館）高橋 則英（日本大学）  
 田中 里実（日本大学）津村 徳道（千葉大学）  
 中 竜大（名古屋大学）西垣 仁美（日本大学）  
 松下 艶子（ニコン）宮本 公明（元富士フィルム）  
 山口 孝子（東京都写真美術館）山下 清司（元富士フィルム）  
 吉野 弘章（東京工芸大学）  
 西部支部：8名  
 井上 義之（元パナソニック）佐藤 慈（九州産業大学）  
 澤田 卓也（かつらぎ町教育委員会）中川 邦昭（ナカガワフォトギャラリー）  
 西村 直哉（三菱製紙）湊 健（三菱製紙）  
 古城 武宣（三菱製紙）米澤 義明（大阪市立大学）
4. フェロー  
 金田 英治（元副会長）小林 裕幸（元会長，千葉大学名誉教授）  
 谷 忠昭（元会長，元富士フィルム）三宅 洋一（元会長，千葉大学名誉教授）

### 【第6号議案】 会員の除名

定款第10条により、20名を除名とする。

以上

1. 開催日時：2019年（令和元年）5月21日（火）15:00～15:50
2. 会 場；三菱製紙本社11階 会議室（両国）  
 〒130-0026 東京都墨田区両国2丁目10番14号（両国シティコア）
3. 議決権を有する代議員総数  
 25名
4. 議決権を有する出席代議員数  
 20名（本人出席：1名、委任状：19名）
5. 出席代議員  
 水口淳
6. 出席役員および役員候補者  
 理事：中野寧、加藤隆志、山田勝実、飯野裕明、大関勝久、郡司秀明、久下謙一  
 鈴木博文、中川邦弘、吉田哲夫、吉田英明、清野晶宏  
 監事：高田俊二、豊田堅二
7. 議事録作成者  
 事務局：山岸治
8. 議事の経過の要領及びその結果  
 会長の中野寧は定款第17条の規定により、議長となり開会を宣言し、定款第19条の規定により、上記のとおり、定足数に足る代議員の出席があったので、本社員総会は適法に成立した旨を報告し、議事に入った。  
 ついで議長は、定款第21条の規定により、議事録署名人を指名したい旨を述べ、加藤隆志氏および山田勝実氏を選任したい旨を述べた。その賛否を議場に諮ったところ満場異議なく、これに賛成した。  
 ついで議長は、定款第14条の規定により、以下の第1号議案から第7号議案の報告及び説明と決議を行うことを宣言した。
- 第1号議案 2018年（平成30年）度事業報告の件  
 議長に指名された吉田英明庶務委員長は、2018年（平成30年）度の事業実施報告を説明し、その内容を報告した。
- 第2号議案 2018年（平成30年）度決算報告・会計監査報告  
 議長に指名された飯野裕明財務副委員長は、平成30年度の決算報告書にて収支決算を報告し、財務監査および決算書作成時に会計士資格保有の専門家の確認がされているかについて、朝日税理士法人で確認している旨の質疑を行った後、豊田堅二監事から監査の結果正鵠なることを認める監査報告があり、その賛否を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。
- 第3号議案 2019年（令和元年）度事業計画書の件  
 議長に指名された吉田英明庶務委員長は、2019年（令和元年）度の事業計画書を説明し、その内容を報告した。その賛否を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。
- 第4号議案 2019年（令和元年）度収支予算書の件  
 議長に指名された飯野裕明財務副委員長は、2019年（令和元年）度収支予算書にて、2019年（令和元年）度収支予算案を説明し、その内容を報告した。その賛否を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。
- 第5号議案 2019年（令和元年）度役員等の選任  
 議長は、定款第23条の規定により、2019年（令和元年）度の改選役員候補の理事及び監事案の議事を行うことを宣言し、山田勝実役員選考委員長は、2019年（令和元年）度の改選役員候補の理事及び監事案を説明し、その改選を議場に諮ったところ、満場異議なく、これを承認可決した。
- 再任理事（10名）：西澤 敦、大関 勝久、郡司 秀明、蒔田 剛、松澤 良紀、加藤 隆志  
 中野 寧、半那 純一、白山 真理、飯野 裕明  
 残留理事（10名）：今泉 祥子、岩崎 仁、久下 謙一、甲田 謙一、鈴木 博文、清野 晶宏  
 中川 邦弘、山田 勝実、吉田 哲夫、吉田 英明  
 再任監事（1名）：豊田 堅二  
 残留監事（1名）：高田 俊二
- 第7号議案 会員の除名  
 議長は、定款第11条の規定により、20名の会員資格を喪失する事を説明し、その賛否を議場に諮ったところ満場異議なく、これを承認可決した。

以上をもって本総会における報告及び全議案の審議を終了したので、議長は午後15時50分に閉会を宣した。

上記議事の経過及びその結果を明確にするため本議事録を作成し、定款21条により、議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

2019年（令和元年）5月21日

一般社団法人 日本写真学会 第8回定時社員総会

議長 中野 寧



議事録署名人 加藤 隆志



議事録署名人 山田 勝実



【第2号議案】平成30年度決算報告並びに会計監査報告

貸借対照表  
平成31年3月31日現在

科 目	当年度	前年度	増 減
(単位:円)			
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	12,187,059	5,629,856	6,557,203
未 収 会 費 金	2,785,500	2,330,750	454,750
未 収 金	417,450	443,450	△ 26,000
前 払 金	64,000	0	64,000
立 替 金	0	38,690	△ 38,690
流動資産合計	15,454,009	8,442,746	7,011,263
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	27,000,000	27,000,000	0
基本財産合計	27,000,000	27,000,000	0
(2) 特定資産			
普通預金	3,002,036	3,503,520	△ 501,484
特定資産合計	3,002,036	3,503,520	△ 501,484
(3) その他固定資産			
電話加入権	74,984	74,984	0
その他固定資産合計	74,984	74,984	0
固定資産合計	30,077,020	30,578,504	△ 501,484
資産合計	45,531,029	39,021,250	6,509,779
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	2,158,900	111,334	2,047,566
前 受 金	0	209,000	△ 209,000
預 り 金	111,291	129,489	△ 18,198
未 払 費 用	214,804	0	214,804
前 受 会 費 金	4,182,500	0	4,182,500
仮 受 金	60,496	0	60,496
流動負債合計	6,727,991	449,823	6,278,168
負債合計	6,727,991	449,823	6,278,168
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	( 3,503,829)	( 3,503,829)	( 0)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	38,803,038	38,571,427	231,611
(うち基本財産への充当額)	( 27,000,000)	( 27,000,000)	( 0)
正味財産合計	38,803,038	38,571,427	231,611
負債及び正味財産合計	45,531,029	39,021,250	6,509,779

正味財産増減計算書  
平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日まで

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[ 5,423 ]	[ 5,700 ]	[△ 277]
基本財産受取利息	[ 5,423 ]	[ 5,700 ]	[△ 277]
受取会費	[ 9,455,500 ]	[ 9,493,350 ]	[△ 37,850]
正会員受取会費	[ 4,926,500 ]	[ 4,981,350 ]	[△ 54,850]
賛助会員受取会費	[ 4,529,000 ]	[ 4,512,000 ]	[ 17,000 ]
事業収益	[ 4,329,100 ]	[ 4,079,000 ]	[ 250,100 ]
講演・研究事業収入	[ 4,329,100 ]	[ 4,079,000 ]	[ 250,100 ]
受取寄付金	[ 600,000 ]	[ 600,000 ]	[ 0 ]
受取寄付金	[ 600,000 ]	[ 600,000 ]	[ 0 ]
雑収利益	[ 852,807 ]	[ 1,268,371 ]	[△ 415,564]
受取利息	[ 4,354 ]	[ 2,115 ]	[ 2,239 ]
広報広告費	[ 162,000 ]	[ 388,800 ]	[△ 226,800]
別刷投稿料代	[ 154,000 ]	[ 220,400 ]	[△ 66,400]
雑収	[ 532,453 ]	[ 657,056 ]	[△ 124,603]
経常収益計	[ 15,242,830 ]	[ 15,446,421 ]	[△ 203,591]
(2) 経常費用			
事業費	[ 7,152,511 ]	[ 7,040,501 ]	[ 112,010 ]
学会誌等刊行事業費	[ 2,687,904 ]	[ 2,910,361 ]	[△ 222,457]
文通費	[ 29,000 ]	[ 0 ]	[ 29,000 ]
印刷製本費	[ 2,572,436 ]	[ 2,825,911 ]	[△ 253,475]
雑査校正料	[ 16,218 ]	[ 17,450 ]	[△ 1,232]
講演研究事業費(1)	[ 70,250 ]	[ 67,000 ]	[ 3,250 ]
講演研究事業費(1)	[ 2,943,557 ]	[ 2,449,630 ]	[ 493,927 ]
給料手当	[ 114,000 ]	[ 144,000 ]	[△ 30,000]
旅費交通費	[ 654,395 ]	[ 233,742 ]	[ 420,653 ]
会場費	[ 347,888 ]	[ 95,000 ]	[ 252,888 ]
通信運搬費	[ 20,686 ]	[ 61,578 ]	[△ 40,892]
会議費	[ 199,670 ]	[ 116,235 ]	[ 83,435 ]
消耗品費	[ 1,782 ]	[ 120,274 ]	[△ 118,492]
諸謝金	[ 423,201 ]	[ 530,648 ]	[△ 107,447]
印刷製本費	[ 229,284 ]	[ 439,344 ]	[△ 210,060]
雑収	[ 221,592 ]	[ 33,719 ]	[ 187,873 ]
参加者会費	[ 731,059 ]	[ 675,090 ]	[ 55,969 ]
講演研究事業費(2)	[ 0 ]	[ 52,592 ]	[△ 52,592]
旅費交通費	[ 0 ]	[ 52,592 ]	[△ 52,592]
奨励助成事業費	[ 1,116,493 ]	[ 1,226,932 ]	[△ 110,439]
奨励助成事業費	[ 1,116,493 ]	[ 1,226,932 ]	[△ 110,439]
給料手当	[ 310,061 ]	[ 318,558 ]	[△ 8,497]
旅費交通費	[ 52,568 ]	[ 47,867 ]	[ 4,701 ]
租税公課	[ 0 ]	[ 147 ]	[△ 147]
福利厚生費	[ 41,928 ]	[ 34,414 ]	[ 7,514 ]
管理費	[ 7,858,708 ]	[ 7,158,331 ]	[ 700,377 ]
給料手当	[ 4,387,836 ]	[ 4,508,090 ]	[△ 120,254]
事務員給料	[ 4,387,836 ]	[ 4,508,090 ]	[△ 120,254]
会費負担金	[ 214,000 ]	[ 214,000 ]	[ 0 ]
旅費交通費	[ 746,802 ]	[ 733,197 ]	[ 13,605 ]
事務員交通費	[ 746,802 ]	[ 677,383 ]	[ 69,419 ]
役員交通費	[ 0 ]	[ 55,814 ]	[△ 55,814]
維持修繕費	[ 0 ]	[ 8,640 ]	[△ 8,640]
通信運搬費	[ 410,260 ]	[ 254,856 ]	[ 155,404 ]

予算対正味財産増減計算書  
平成30年 4月 1日から平成31年 3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	[ 1,000 ]	[ 5,423 ]	[△ 4,423]
基本財産受取利息	[ 1,000 ]	[ 5,423 ]	[△ 4,423]
受取会費	[ 10,016,000 ]	[ 9,455,500 ]	[ 560,500 ]
正会員受取会費	[ 5,373,000 ]	[ 4,926,500 ]	[ 446,500 ]
賛助会員受取会費	[ 4,643,000 ]	[ 4,529,000 ]	[ 114,000 ]
事業収益	[ 4,692,000 ]	[ 4,329,100 ]	[ 362,900 ]
講演・研究事業収入	[ 4,692,000 ]	[ 4,329,100 ]	[ 362,900 ]
受取寄付金	[ 1,379,026 ]	[ 600,000 ]	[ 779,026 ]
受取寄付金	[ 1,379,026 ]	[ 600,000 ]	[ 779,026 ]
雑収利益	[ 1,396,400 ]	[ 852,807 ]	[ 543,593 ]
受取利息	[ 6,000 ]	[ 4,354 ]	[ 1,646 ]
広報広告費	[ 410,400 ]	[ 162,000 ]	[ 248,400 ]
別刷投稿料代	[ 480,000 ]	[ 154,000 ]	[ 326,000 ]
雑収	[ 500,000 ]	[ 532,453 ]	[△ 32,453]
経常収益計	[ 17,484,426 ]	[ 15,242,830 ]	[ 2,241,596 ]
(2) 経常費用			
事業費	[ 9,198,000 ]	[ 7,152,511 ]	[ 2,045,489 ]
学会誌等刊行事業費	[ 3,710,000 ]	[ 2,687,904 ]	[ 1,022,096 ]
文通費	[ 300,000 ]	[ 0 ]	[ 300,000 ]
印刷製本費	[ 40,000 ]	[ 29,000 ]	[ 11,000 ]
雑査校正料	[ 3,000,000 ]	[ 2,572,436 ]	[ 427,564 ]
講演研究事業費(1)	[ 20,000 ]	[ 16,218 ]	[ 3,782 ]
講演研究事業費(1)	[ 80,000 ]	[ 0 ]	[ 80,000 ]
JSTAG編集費	[ 250,000 ]	[ 0 ]	[ 250,000 ]
審査校正料	[ 20,000 ]	[ 70,250 ]	[△ 50,250]
講演研究事業費(1)	[ 3,159,000 ]	[ 2,943,557 ]	[ 215,443 ]
給料手当	[ 243,000 ]	[ 114,000 ]	[ 129,000 ]
旅費交通費	[ 342,000 ]	[ 654,395 ]	[△ 312,395]
会場費	[ 300,000 ]	[ 347,888 ]	[△ 47,888]
通信運搬費	[ 88,000 ]	[ 20,686 ]	[ 67,314 ]
会議費	[ 144,000 ]	[ 199,670 ]	[△ 55,670]
消耗品費	[ 20,000 ]	[ 1,782 ]	[ 18,218 ]
諸謝金	[ 787,000 ]	[ 423,201 ]	[ 363,799 ]
印刷製本費	[ 483,000 ]	[ 229,284 ]	[ 253,716 ]
雑収	[ 46,000 ]	[ 221,592 ]	[△ 175,592]
参加者会費	[ 706,000 ]	[ 731,059 ]	[△ 25,059]
講演研究事業費(2)	[ 640,000 ]	[ 0 ]	[ 640,000 ]
旅費交通費	[ 30,000 ]	[ 0 ]	[ 30,000 ]
通信運搬費	[ 400,000 ]	[ 0 ]	[ 400,000 ]
諸謝金	[ 100,000 ]	[ 0 ]	[ 100,000 ]
雑収	[ 110,000 ]	[ 0 ]	[ 110,000 ]
奨励助成事業費	[ 1,550,000 ]	[ 1,116,493 ]	[ 433,507 ]
奨励助成事業費	[ 1,550,000 ]	[ 1,116,493 ]	[ 433,507 ]
給料手当	[ 0 ]	[ 310,061 ]	[△ 310,061]
旅費交通費	[ 0 ]	[ 52,568 ]	[△ 52,568]
福利厚生費	[ 0 ]	[ 41,928 ]	[△ 41,928]
雑収	[ 139,000 ]	[ 0 ]	[ 139,000 ]
管理費	[ 7,971,940 ]	[ 7,858,708 ]	[ 113,232 ]
給料手当	[ 4,430,000 ]	[ 4,387,836 ]	[ 42,164 ]
事務員給料	[ 3,280,000 ]	[ 4,387,836 ]	[△ 1,107,836]

科 目	当年度	前年度	増 減
租税公課	71,262	71,042	220
会議費	1,770	3,780	△ 2,010
消耗品費	244,583	123,728	120,855
福利厚生費	( 593,343 )	( 487,023 )	( 106,320 )
法定福利費	593,343	487,023	106,320
貸借料	539,968	139,968	400,000
雑謝金	550,800	550,800	0
雑収	98,084	63,207	34,877
経常費用計	15,011,219	14,198,832	812,387
評価損益等調整前当期経常増減額	231,611	1,247,589	△ 1,015,978
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	231,611	1,247,589	△ 1,015,978
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	231,611	1,247,589	△ 1,015,978
一般正味財産期首残高	38,571,427	37,323,838	1,247,589
一般正味財産期末残高	38,803,038	38,571,427	231,611
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	38,803,038	38,571,427	231,611

科 目	予算額	決算額	差 異
臨時雇賃金	1,150,000	0	1,150,000
会費負担金	145,000	214,000	△ 69,000
旅費交通費	( 800,000 )	( 746,802 )	( 53,198 )
事務員交通費	600,000	746,802	( 146,802 )
役員交通費	200,000	0	200,000
減価償却費	21,000	0	21,000
通信運搬費	700,000	410,260	289,740
租税公課	74,000	71,262	2,738
会議費	0	1,770	△ 1,770
消耗品費	200,000	244,583	△ 44,583
福利厚生費	( 562,860 )	( 593,343 )	( 30,483 )
法定福利費	562,860	593,343	△ 30,483
貸借料	123,480	539,968	△ 416,488
諸謝金	615,600	550,800	64,800
事務所維持管理費	200,000	0	200,000
雑収	100,000	98,084	1,916
経常費用計	17,169,940	15,011,219	2,158,721
評価損益等調整前当期経常増減額	314,486	231,611	82,875
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	314,486	231,611	82,875
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	314,486	231,611	82,875
一般正味財産期首残高	0	38,571,427	△ 38,571,427
一般正味財産期末残高	314,486	38,803,038	△ 38,488,552
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	314,486	38,803,038	△ 38,488,552

平成 30 年度監査報告

一般社団法人 日本写真学会  
 会長 中野 寧 殿

私たち監事は、当法人の平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの平成 30 年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 9 9 条第 1 項（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 1 9 7 条において準用する同法第 9 9 条第 1 項）及び一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 3 6 条及び第 4 5 条（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 6 4 条において準用する同規則第 3 6 条及び第 4 5 条）の規定に基づき本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行について報告を受け、重要な決裁書類等を閲覧し、当協会の主たる事務所において業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法によって、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書を監査しました。さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について監査しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当協会の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当協会の財産及び損益の状況を全て重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成 31 年 4 月 25 日

監事 高田 俊二  
 監事 豊田 堅二

【第 4 号議案】平成 30 年度収支予算書

(単位:円)			
科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用利益	[ 5,700 ]	[ 1,000 ]	[ 4,700 ]
基本財産受取利息	5,700	1,000	4,700
受取会費	[ 9,838,417 ]	[ 10,016,000 ]	[△ 177,583]
正会員受取会費	5,230,417	5,373,000	△ 142,583
賛助会員受取会費	4,608,000	4,643,000	△ 35,000
事業収益	[ 4,493,000 ]	[ 4,692,000 ]	[△ 199,000]
講演・研究事業収入	4,493,000	4,692,000	△ 199,000
受取寄付金	[ 1,379,026 ]	[ 1,379,026 ]	[ 0 ]
受取寄付金	1,379,026	1,379,026	0
雑収入	[ 1,268,371 ]	[ 1,396,400 ]	[△ 128,029]
受取利息	2,115	6,000	△ 3,885
広告費	388,800	410,400	△ 21,600
別刷・投稿料代	220,400	480,000	△ 259,600
雑収入	657,056	500,000	157,056
経常収益計	16,984,514	17,484,426	△ 499,912
(2) 経常費用			
事業費	[ 8,517,000 ]	[ 9,198,000 ]	[△ 681,000]
学会誌発行事業費	( 3,720,000 )	( 3,710,000 )	( 10,000 )
事務員給与	10,000	0	10,000
学会誌送付費	300,000	300,000	0
交通費	40,000	40,000	0
印刷製本費	3,000,000	3,000,000	0
雑費	20,000	20,000	0
原稿	80,000	80,000	0
J-S-T-A-G-E 編集料	250,000	250,000	0
査校	20,000	20,000	0
講演研究事業費(1)	( 3,127,000 )	( 3,159,000 )	(△ 32,000)
送料	179,000	243,000	△ 64,000
旅費	363,000	342,000	21,000
会場費	378,000	300,000	78,000
通信運搬費	83,000	88,000	△ 5,000
会議費	144,000	144,000	0
消耗品	20,000	20,000	0
諸謝金	733,000	787,000	△ 54,000
印刷製本費	461,000	483,000	△ 22,000
雑費	27,000	46,000	△ 19,000
参加者会合費	739,000	706,000	33,000
講演研究事業費(2)	( 620,000 )	( 640,000 )	(△ 20,000)
旅費	30,000	30,000	0
通信運搬費	480,000	400,000	80,000
諸謝金	100,000	100,000	0
雑費	10,000	110,000	△ 100,000
奨励助成事業	( 1,050,000 )	( 1,550,000 )	(△ 500,000)
奨励助成金	1,050,000	1,550,000	△ 500,000
雑費	0	139,000	△ 139,000
管理費	[ 7,670,721 ]	[ 7,971,940 ]	[△ 301,219]
給料手当	( 4,508,090 )	( 4,430,000 )	( 78,090 )
事務員給料	4,508,090	3,280,000	1,228,090
臨時雇用賃金	0	1,150,000	△ 1,150,000
会費負担金	353,000	145,000	208,000

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
旅費	( 800,000 )	( 800,000 )	( 0 )
交通費	700,000	600,000	100,000
役員交通費	100,000	200,000	△ 100,000
減価償却費	0	21,000	△ 21,000
維持修繕費	8,640	0	8,640
通信運搬費	250,000	700,000	△ 450,000
租税公課	74,000	74,000	0
消耗品費	150,000	200,000	△ 50,000
福利厚生費	( 487,023 )	( 562,860 )	(△ 75,837)
法定福利費	487,023	562,860	△ 75,837
貸借料	139,968	123,488	16,488
諸謝金	600,000	615,600	△ 15,600
事務所維持管理費	200,000	200,000	0
雑費	100,000	100,000	0
経常費用計	16,187,721	17,169,940	△ 982,219
評価損益等調整前当期経常増減額	796,793	314,486	482,307
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	796,793	314,486	482,307
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	796,793	314,486	482,307
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	796,793	314,486	482,307
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	796,793	314,486	482,307